

今週のトピックス

2020年5月15日編集

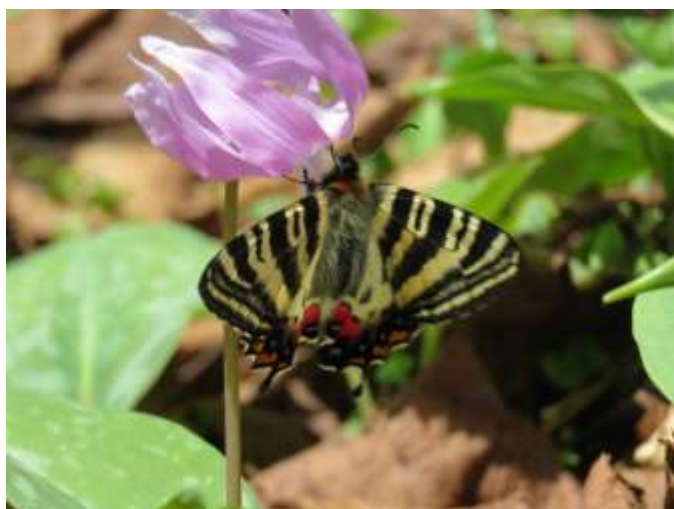
令和2年度の有峰森林文化村の開村に向けた準備のため、5月14日（木）今年初めて上山しました。有峰は標高1000～1300mの高原盆地です。今年もタイムリーな有峰のトピックスを提供致します。

○ “春の女神” ギフチョウとの再開

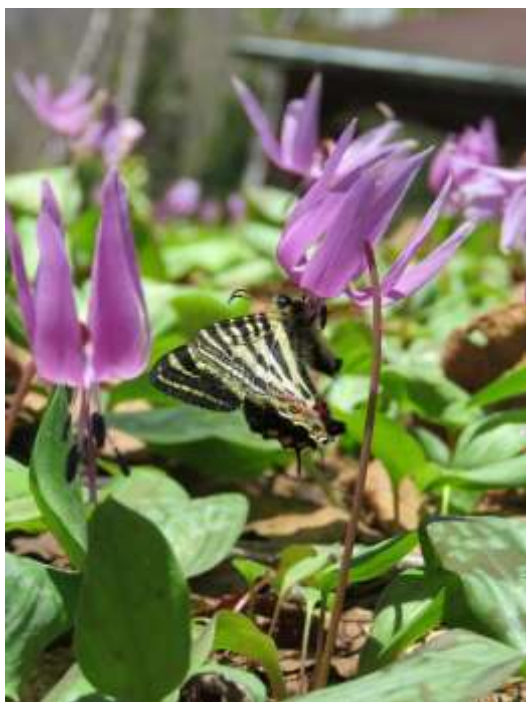
上山初日の5月14日は五月晴れの1日で、上山時の有峰の外気温も20℃を超えていました。早速、半年ぶりに訪れた猪根平、ギフチョウ（アゲハチョウ科ウスバシロチョウ亜科）を探して散策してみました。陽光に誘われてかスプリング・エフメラルの別名のあるカタクリ（ユリ科）にギフチョウが訪花し、吸蜜していました。他の訪花植物スミレ類（スミレ科）やエゾエンゴサク（ケシ科）も咲き始めました。有峰平有峰は“春の女神”ギフチョウの聖地です。6月1日の有峰林道開通と共にチョウマニアの方々も来有されます。



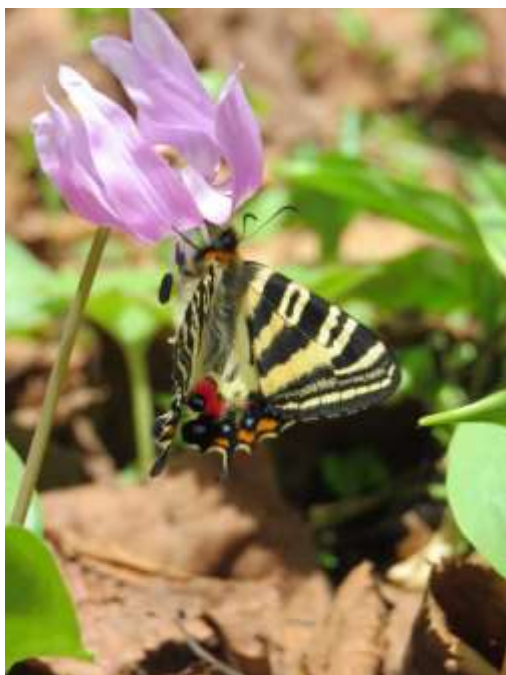
カタクリで吸蜜中のギフチョウ♂個体
(2020年5月14日11:10 猪根平で撮影)



カタクリで吸蜜中のギフチョ♀個体
(2020年5月15日10:30 猪根平で撮影)



カタクリで吸蜜中のギフチョウ♂個体
(2020年5月14日11:00 猪根平で撮影)



カタクリで吸蜜中のギフチヨ♀個体
(2020年5月15日10:40 猪根平で撮影)



カタクリで吸蜜中のギフチヨ♀個体
(2020年5月15日11:00 猪根平で撮影)

○カラマツ無残！

有峰は、ブナやミズナラが分布しており、ツキノワグマの恒常的生息地の一つです。

昨年令和元年は、ブナ・ミズナラなどのドングリ(堅実

類)が凶作年だったためか、人里でのツキノワグマの被害が多発した年でした。

有峰ではツキノワグマによる樹皮はぎ(クマはぎ)の被害が目立つようになってきました。全周を樹皮はぎされたカラマツ(植林されたもの)は、葉が薄い茶色に変色し、立ち枯れ状態になっています。一部でも樹皮が残っている木からは、新緑が展開しています。今後の被害拡大が懸念されます。

今年、小池伸介著/澤井俊彦写真の「森と生きる。ツキノワグマのすべて」(2020年4月24日初版第1版発行)が刊行されました。ツキノワグマの秘密に迫る！迫力の生態写真や最新の研究が掲載されています。

この本の中で、樹皮はぎについて、どのような目的で樹皮はぎを行うかは、不明と記載されています。カラマツは針葉樹ですが、樹脂をはいだ際に出る揮発性物質がクマを誘因しているという説についても解説されています。樹皮はツキノワグマの痕跡(フィールドサイン)の一つですね。

有峰は、ツキノワグマの恒常的生息域であるため、来訪者の方々へのクマ情報提供の他、ツキノワグマとの共生・共存への配慮も必要と考えています。

今年も森に生きるツキノワグマの情報を提供していきます。



全周を樹皮はぎされ立枯れしたカラマツ(右)
(2020年5月14日15:30 撮影)



全周を樹皮はぎされ立枯れしたカラマツ
(2020年5月14日16:30撮影)

○アズマヒキガエルの卵塊発見！

せせらぎ広場の池の水溜まりでアズマヒキガエル(ヒキガエル科ヒキガエル亜科)の卵塊を発見しました。



せせらぎ広場で発見したアズマヒキガエルの
卵塊 (2020年5月14日16:00撮影)